

大成ファイン 硬化性重視した ウレタンアクリル

大成ファインケミカル
は、UV硬化型ウレタンアクリルポリマー「アクリット8BR-500」の製品ラインアップを拡充し、サンプル出荷を開始した。

同社では、一昨年種前に同硬化型のウレタンアクリルポリマーの開発に成功し、製品展開しているが、従来製品の「アクリット8BR-500」(M.w.約20万、二重結合量・1700)に加え、硬化性を重視した「アクリット8BR-930」(M.w.約1.6万

二重結合量:800)を新規に取りそろえることで、多様化するハードコートの高機能化、顧客の幅広い材料設計に対応する。

同製品シリーズは、UV硬化ハードコートにおける塗膜の硬化収縮を抑え、柔軟性および基材密着性を付与するUV硬化性ポリマー材料として使用することができ、ハードコート設計に同製品シリーズを組み込むことで、硬度と柔軟性バランスの向上に寄与し、PPE(ポリエチレンテレフタレート)フィルムに5μmの膜厚条件で硬さ(ヤング率)は、伸び率60、75%という高い表面硬度・耐擦傷性と加工性・伸度・屈曲性を実現する。

さらに、その優れた柔軟特性から、ハードコート耐衝撃性、耐クラック性向上等にも寄与することが期待される。

同社では、今後の顧客

の用途や要望に合わせて幅広い材料設計、樹脂カテゴリーに対応している予定。同製品シリーズを機能性ハードコート材料として、今後は自動車内装の加飾フィルム、タッチパネルを主とするディスプレイなどの光學フィルムを主なターゲットに、市場展開の加速、さらなる強みを付けようとしている。

問い合わせは、同社営業グループ(☎03・3691・3111)まで。

同社では、こうした顧客への対応として、各メーカーのカーボン含有の凝集状態を解析し、その凝集原因を電解質不純物処理(特許)などで取り除き、同時に細かくなったストラクチャーと樹脂で包み込むことで、カーボン粒子を安定化させた。

これにより、分散剤フリーで漆黒性やその他の特性を表現できる安定的な加工原料としての提供が可能になったという。

この製法は、化学的なアプローチによる分散であるため、エネルギーコストも低く、環境や生産性も大幅に改善されている。

また、ユーザーの製品設計に合わせて、従来の分散手法と組み合わせ、高分散性、高透明性、高流動性、高粘度・ペースト化にも対応する。

「樹脂の設計技術も加え、分散性や機能性を有する専用樹脂の開発により、機能性分散体の設計も可能になる」とのことだ。

今後は、カーボン以外の顔料や分散の必要な機能材料への応用も期待され、長期安定性の高い同製法による製品は、簡易な操作での高機能コーティング材の製造も可能となり、国内の小ロット生産対応の原料として活用できる。

また、海外などの変動の激しい市場への事業展開時の投資リスクを抑えながら、高機能性の設計ができる素材の提供であり、ビジネスパートナーとしても有効である。

同社では、ユーザーの用途や要望に合わせた顔料や機能材料の分散体を提供することで、高性能分野の有償試作研究も進められているとしている。

大成化工 分散剤フリーで漆黒性 カーボン分散体の試作 対応開始

大成化工(東京都葛飾区西新小岩3-5-1、☎03・6271・0002)は、高級加工顔料の「Cカラーチップ」を開発しているが、このほか新たな製法を開発し、分散剤フリーで漆黒性のあるカーボン分散体「ネクス」(Cカラーチップ)の試作対応を開始した。

カーボンは塗料やインキ、繊維、電池、電材などの各種分野の素材や機能の用途や要望に合わせて幅広い材料設計、樹脂カテゴリーに対応している予定。同製品シリーズを機能性ハードコート材料として、今後は自動車内装の加飾フィルム、タッチパネルを主とするディスプレイなどの光學フィルムを主なターゲットに、市場展開の加速、さらなる強みを付けようとしている。

問い合わせは、同社営業グループ(☎03・3691・3111)まで。

同社では、こうした顧客への対応として、各メーカーのカーボン含有の凝集状態を解析し、その凝集原因を電解質不純物処理(特許)などで取り除き、同時に細かくなったストラクチャーと樹脂で包み込むことで、カーボン粒子を安定化させた。

これにより、分散剤フリーで漆黒性やその他の特性を表現できる安定的な加工原料としての提供が可能になったという。

この製法は、化学的なアプローチによる分散であるため、エネルギーコストも低く、環境や生産性も大幅に改善されている。

また、ユーザーの製品設計に合わせて、従来の分散手法と組み合わせ、高分散性、高透明性、高流動性、高粘度・ペースト化にも対応する。

「樹脂の設計技術も加え、分散性や機能性を有する専用樹脂の開発により、機能性分散体の設計も可能になる」とのことだ。

今後は、カーボン以外の顔料や分散の必要な機能材料への応用も期待され、長期安定性の高い同製法による製品は、簡易な操作での高機能コーティング材の製造も可能となり、国内の小ロット生産対応の原料として活用できる。

また、海外などの変動の激しい市場への事業展開時の投資リスクを抑えながら、高機能性の設計ができる素材の提供であり、ビジネスパートナーとしても有効である。

同社では、ユーザーの用途や要望に合わせた顔料や機能材料の分散体を提供することで、高性能分野の有償試作研究も進められているとしている。

問い合わせは、同社営業グループ(☎03・3691・3111)まで。

同社では、こうした顧客への対応として、各メーカーのカーボン含有の凝集状態を解析し、その凝集原因を電解質不純物処理(特許)などで取り除き、同時に細かくなったストラクチャーと樹脂で包み込むことで、カーボン粒子を安定化させた。

これにより、分散剤フリーで漆黒性やその他の特性を表現できる安定的な加工原料としての提供が可能になったという。

この製法は、化学的なアプローチによる分散であるため、エネルギーコストも低く、環境や生産性も大幅に改善されている。

また、ユーザーの製品設計に合わせて、従来の分散手法と組み合わせ、高分散性、高透明性、高流動性、高粘度・ペースト化にも対応する。

「樹脂の設計技術も加え、分散性や機能性を有する専用樹脂の開発により、機能性分散体の設計も可能になる」とのことだ。

今後は、カーボン以外の顔料や分散の必要な機能材料への応用も期待され、長期安定性の高い同製法による製品は、簡易な操作での高機能コーティング材の製造も可能となり、国内の小ロット生産対応の原料として活用できる。

また、海外などの変動の激しい市場への事業展開時の投資リスクを抑えながら、高機能性の設計ができる素材の提供であり、ビジネスパートナーとしても有効である。

同社では、ユーザーの用途や要望に合わせた顔料や機能材料の分散体を提供することで、高性能分野の有償試作研究も進められているとしている。

問い合わせは、同社営業グループ(☎03・3691・3111)まで。

同社では、こうした顧客への対応として、各メーカーのカーボン含有の凝集状態を解析し、その凝集原因を電解質不純物処理(特許)などで取り除き、同時に細かくなったストラクチャーと樹脂で包み込むことで、カーボン粒子を安定化させた。

これにより、分散剤フリーで漆黒性やその他の特性を表現できる安定的な加工原料としての提供が可能になったという。

この製法は、化学的なアプローチによる分散であるため、エネルギーコストも低く、環境や生産性も大幅に改善されている。

また、ユーザーの製品設計に合わせて、従来の分散手法と組み合わせ、高分散性、高透明性、高流動性、高粘度・ペースト化にも対応する。

「樹脂の設計技術も加え、分散性や機能性を有する専用樹脂の開発により、機能性分散体の設計も可能になる」とのことだ。

今後は、カーボン以外の顔料や分散の必要な機能材料への応用も期待され、長期安定性の高い同製法による製品は、簡易な操作での高機能コーティング材の製造も可能となり、国内の小ロット生産対応の原料として活用できる。

また、海外などの変動の激しい市場への事業展開時の投資リスクを抑えながら、高機能性の設計ができる素材の提供であり、ビジネスパートナーとしても有効である。

同社では、ユーザーの用途や要望に合わせた顔料や機能材料の分散体を提供することで、高性能分野の有償試作研究も進められているとしている。